

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 石井 美紀代	職名 准教授	学位 修士(看護学) 大分医科大学 2001 年
-----------	--------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
地域・在宅看護学	在宅ケア、訪問看護

研 究 課 題
医療・介護の一体化改革によって、在宅の定義が単に自宅を指すものではなく、「生活の場」に拡大されている。そこで、地域包括ケアにおける看護職の機能や役割について研究する。

担 当 授 業 科 目
社会保障概説(看護学科1年 後期) 家族と健康(看護学科2年 前期) 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ(看護学科2年 後期) 看護研究(看護学科3年 前期) 在宅看護学(看護学科3年 前期) 在宅看護学演習(看護学科3年 前期) 在宅看護学実習(看護学科3年後期・4年前期) 看護総合演習(看護学科4年 通年) 看護総合実習(看護学科4年 通年) 高齢者支援学Ⅰ(保健福祉学部共通科目 2年集中) 高齢者支援学Ⅱ(保健福祉学部共通科目 4年集中) ※履修者0名で開講せず 看護学(栄養学科3年 後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 社会保障概説 】 講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の4本柱を、社会福祉士の外部講師を含み3人で担当している。単位認定者として、その調整も担った。 中学や高校の「公民」の授業で日本国憲法や社会保障制度を学んできて、苦手意識を持っている学生は多い。そのため、制度の解説と法的根拠の整理だけではなく、患者や地域住民、家族と関連させた事例使って解説し、看護とのつながりを意識することを重視した。また、過去に国家試験で出題された問題を、授業の最後に解いてもらい、解説することで理解を深めるようにした。また、授業終わりには、毎回、質問の時間を確保した。法律や制度は暗記する部分が多いが、期末テストは遠隔になる事を予測して、早い段階で自筆で作った資料を持ち込みを許可することにした。すべての学生が、まとめの資料を作って授業を終了することができた。
授業科目名【 家族と健康 】 講義は家族看護学の教科書を使い、社会学を専門とする外部講師にも2回講義してもらって、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説した。理論の解説後は、使える知識になるよう看護の対象となる事例を用いて各自で展開し提出を求め、次の週に解説した。 学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定される。そのため、事前に学生支援室に協力を依頼するとともに、あえて自分の家族を説明したり分析したりしなかった今年はリモートだったため学生の反応が読めず、講義後も負の反応を見せる学生はいなかった。

授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ 】 この講義は、看護師課程は選択、保健師課程は必修である。保健師課程を目指す学生と、単位取得のみを目指す学生が混在しており、取り組み意欲に差があった。しかし、目標を下げることなく、専門雑誌の記事を資料にして実務とその背景や理論を押さえていった。 さらに、個人ワークからグループでディスカッションをして、先進的な取り組みについて成功する因子を思考させて理解を深めようとした。しかし、ディスカッションに慣れておらず、意見を出し合うことが難しく、思考することなく時間が過ぎる状況であった。学生に思考させる方法について課題が残った。
授業科目名【 在宅看護学・在宅看護学演習 】 今回は、在宅看護学と在宅看護学演習が時間割上続きであった。そのため、演習を中心に、講義と演習を同じテーマで流れを作り、理解を図った。演習の在宅看護過程では、グループワークと個人ワークを組み合わせ、個々人の知識・理解の習得を目指した。共通事例の看護過程を見本として配布し、在宅看護過程のポイントを共通事例で解説して、別に提示した事例を個人で展開する方法をとった。教員4人で担当しているため、コメントに差が出ないように頻りに打合せ、コメントの内容も出来るだけ統一した。 学生は解剖・生理、疾病などの基礎的知識に乏しく、それを補うために口頭試問を実施したが、アセスメントに既習の知識を結びつけることができず、在宅看護の特性を踏まえた看護過程まで到達する学生が少なかった。全体の達成度も低かった。
授業科目名【 在宅看護学実習 】 在宅看護は対象の生活環境が違いうところで臨機応変に看護を提供するもので、実習は現場から得ることが必要である。そのため、依頼している実習施設の中で、同伴訪問もしくは事業所で指導して下さる訪問看護ステーションに、例年より多くの学生数を無理に引き受けていただいた。そのため、一部の学生を除いて、1回以上の同伴訪問が実施でき、学生に貴重な体験を提供することができた。臨地に行けない日には、学内でDVDやYouTubeから在宅介護における社会問題についてテーマを決めて事例画像を作成し、事例学習を実施した。 他の看護領域は学内のみの実習が多い中に学生を臨地に行かせたことで、今までになかった失敗やヒヤリハット事案が発生し、実習施設に謝罪に行くことが多かった。しかし、施設側は実習の重要性を理解していただいており、中断させることなく最後まで実習を継続させていただいたことに感謝している。 学生は臨地実習に慣れていないため、過緊張となり、楽しんで実習する様子が見られないまま終了することが多かった。希望を聞くとリモート実習を要望する学生も多く見られ、学生自身が看護学実習の辛さから逃れようとする姿勢があった。これは、在宅看護学実習だけの問題ではないことから、他の看護領域とも協働して指導していく必要性を感じた。 また、多様化せざるを得ない実習に、助手が「どうですか」「何をすればいいですか」と動揺し、考えられない状況であった。助手の動揺を受け止め、混乱を整理し、方向性を示し、行動の指示をすることが求められた。学生に実習の成果を担保すること、助手の段取り力、指導力を支える事を、常に考えた。
授業科目名【 看護総合演習・看護総合実習 】 5人の学生は、例年通り、多領域の選抜を漏れて在宅領域にきた学生であった。それでも、在宅看護はあらゆる年齢、あらゆる疾患を対象としているため、学生にはもともと興味のあった分野の在宅バージョンで、テーマを決めてもらった。前期は、自分が設定したテーマについて、入手可能な論文を読んで調べ、毎週1回、対面またはリモートで発表しあった。学生は、先行研究を探すために図書館の利用を指導しても、図書館ではなくネットから入手し、「文献が無い」「keywordが見つからない」と申し出てくるため、文献検索の指導にかなりの手間があった。コロナウイルス感染症のよい影響として、リモートで無料の看護の研修会が多くある。自分のテーマに見合ったリモート講演会を探して受講することも勧めたが、それに応じたのは半数だった。 看護総合演習・看護総合実習の成果の論文は、論文集にしてゼミ生に配布した。リモートでの論文指導は、学生の進行速度とやる気が影響する。期限を決めてもなかなか提出しない学生がおり、しかも、連絡を絶たれるとなすすべがなかった。
授業科目名【 看護研究 】 本講義は5名の教員で担当した。前半は講義中心で、研究の流れ・研究デザイン・研究手続・研究倫理・研究計画書についての解説を行う。後半は、グループワークで研究計画書の作成・質問紙調査・分析・結果・考察・論文作成をし、最後に発表会を行う。5名の教員が、4つの小グループを分担して指導するため、授業前に打合せを十分に行い、方向性を一致させた。 学生は初年次セミナーで文献検索、論文の書き方を学び、これまでもレポートをいくつも書いた経験があつて

も、研究テーマ設定や文献検索からの段取りができず、また、グループのリーダーシップをとる学生が少なく、どう進めていくのかを導き、学生自身に考えさせることに力を注いだものの、グループ間で取り組みの差があった。 一方、学生はオンライン授業に慣れ、オンラインでのグループワークの手法も獲得しており、フォームを使ったアンケート、ドライブ上のファイルの共同編集などの機能を使いこなした。また、時間外の作業も自分たちで時間調整して実施していた。一部のメンバーに負担があったグループもあったため、学生同士でのリーダーシップ・メンバーシップのあり方を学ぶことが、今後の学生の課題であるように思う。
授業科目名【 高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ 】 高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ講義は総合人間科学に位置し保健福祉学部の3学科共同で行われる。 高齢者支援学Ⅰは福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。初日に講義、2日目に3学科合同で事例を使ったグループワークを行う。講義では、各学科のカリキュラムが違うために、高齢者の特性を共通認識させることに特化した。グループワークでは、3学科の学生が自分の得意分野を示そうと作業分担しがちになることから、3学科でディスカッションさせることに注力した。事例の問題をあげるだけでなく、その原因や要因を話し合う事を約束事にしたことから、解決方法が導きやすく具体的な方法が出された。看護学科の学生は、各グループの中でリーダーシップを発揮しており、これまでの授業でディスカッションになれていることが明らかにわかった。 高齢者支援学Ⅱは、受講生がおらず開講されなかった。
授業科目名【 看護学（栄養学科） 】 この講義は看護学科教員がオムニバスで行い、私は在宅療養における看護師と栄養士の機能について2コマ担当した。今年度は受講生がおらず、開講されなかった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～（現在に至る）
日本地域看護学会		1997年10月～（現在に至る）
日本看護学教育学会		1998年4月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会		1998年4月～（現在に至る）
日本老年社会科学会		1999年4月～（現在に至る）
日本学校保健学会		1999年4月～（現在に至る）
日本老年看護学会		1999年8月～（現在に至る）
日本看護研究学会		2001年11月～（現在に至る）
日本在宅ケア学会		2004年8月～（現在に至る）

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
なし				
(学術論文)				
なし				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2023年3月
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	2020年4月～2022年3月
福岡県看護協会看護研究倫理審査委員会	委員	2021年4月～2023年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
[大学委員会] 学生募集委員 [学科役割] 要ネット・学生募集関連担当（リーダー）